

# 児童がわくわくする「読むこと・書くこと」を介した言語活動の探究 ～小学6年生を対象とした校内での手紙の交流活動（Secret Friend）の実践を通して～

上尾市立大石南小学校 教諭 高橋 博将

## I はじめに

小学校高学年において、外国語科が本格実施となり6年目となる現在でも、依然、「話すこと・聞くこと」の音声領域と比較して、新たに導入された「読むこと・書くこと」の領域の指導方法が確立されているとはい難く、言語活動にも広がりが見られない。現行の小学校外国語科の学習指導要領（文科省, 2017a）の目標では、「言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成を図る（p.67）」とあるが、「読むこと・書くこと」に関する全国の実践内容に目を通してみても、児童がわくわくしながら文字を介したやり取りを愉しんでいる姿はあまり見られない。

## II 研究題目設定の理由

文科省（2017b）では、言語活動を「実際に英語を使用して互いの考え方や気持ちを伝え合う活動（p.23）」と定義づけている。『令和5年度 英語教育実施状況調査』（文科省, 2023）では、小学校高学年の外国語科に関する意識調査の中で、授業における児童の英語による言語活動が、授業の半分以上と回答した学校の割合が、全国平均で94.4%であることを報告している。さらに、言語活動内の「読むこと」の占める割合が13.3%、「書くこと」の占める割合が19.0%であるという。果たして、この数字はどれほど現状を正確に描写しているのか。児童は、英語で書かれた文章から情報を読み取ったり、自らの思いを相手に伝えようと英文を書いたりする中で、言語活動の愉しさを享受できているのだろうか。

中学校外国語科の学習指導要領（文科省, 2017）の「内容」では、「ウ 読むこと（イ）日常的な話題について、簡単な表現が用いられている広告やパンフレット、予定表、手紙、電子メール、短い文章などから、自分が必要とする情報を読み取る活動（p.59）」、「エ 書くこと（イ）簡単な手紙や電子メールの形で自分の近況などを伝える活動（p.67）」と、手紙を活用した言語活動が例示されている。この手紙を活用したやり取りを、学習者の発達の段階や学習歴を慎重に見極めながら適切に足場がけや指導を行っていくことで、小学校高学年の児童においても、手紙の交流活動に期待される教育的効果を十分に享受できるものであると考える。実際、岩下（2020）では、小中連携の観点から、日本人の小・中学生間の手紙の交流活動の実践について報

告している。「明確な相手意識を育んだ上で手紙を書くことで、『書くこと』の技能を小学校外国語科の目標とされる段階まで到達させ、外国語学習への意欲を育むことに有効である（p.155）」とし、小学校高学年の児童を対象とした手紙の交流活動の有効性に触れている。

以上を踏まえ、本実践では手紙の交流活動という切り口から、児童の発達の段階や学習歴に適した、「読むこと・書くこと」を介した魅力的な言語活動の開発、さらにはその効果検証をすべく本研究題目を設定した。

## III 研究背景

### 1 海外との手紙の交流活動

Gorshkov・Lange（2017）は、日本の大学に通う日本人学生43名を対象に、英語を使って中国人の学生との1往復の手紙の交流活動を実施することで、オーセンティックな学びを提供することができ、学生の統合的動機づけを高める上での有効な手段だとしている。伊藤（2015）では、日本人の中学生200名を対象とした、アメリカの小・中学生との手紙の交流活動を2年間で計4往復行っている。実践の結果、手紙の交流活動の前後で、日本人の生徒による自らと異なる文化的な背景や価値観をもつ者を尊重する意識に顕著な差が見られ、英語学習にも意欲的になったことを報告している。同じく、アメリカの中学生と交流した中学生78名を対象にした実践（高畠, 2023）では、1往復の手紙の交流活動の実践を報告した上で、「今回の実践研究での最大の収穫は、コミュニケーション能力を楽しさの中で育むことができたことと、生徒の主体的な学習姿勢を導き出すことができたことにある。言語の基本であるコミュニケーションを生徒たちは想像以上に望んでおり、そういう気持ちをもっと引き出すためのさまざまな指導の工夫をするべきであると確信を新たにした（p.260）」と結論づけている。

### 2 国内における手紙の交流活動

国内における手紙の交流活動の実践については、先に引用した岩下（2020）の他にも、もともと海外で行われていたFlat Stanley Projectを参考に、中島・奥平・黒木（2025）では、都道府県をまたいだ小学生同士の手紙の交流活動の実践について紹介されている。実践の結果、コミュニケーション方略を活用しながら、

自らと異なる場所で暮らし、異なる文化的背景や価値観を有する相手を尊重する他者理解の意識、外国語学習への意欲づけ、さらには、「読むこと・書くこと」能力の育成にも一定の効果があるとしている。

ここまで、国内外との手紙の交流活動の実践を概観した上で、考えられる教育的効果を以下にまとめる。

- (1) オーセンティックな学びの機会
- (2) 異文化理解や他者理解の意識の涵養
- (3) 動機づけや学習意欲の強化
- (4) 「読み・書き」の能力の向上

### 3 手紙の交流活動における懸念点

一方で、海外との手紙の交流活動にせよ、国内における手紙の交流活動にせよ、交流の相手を探す段階から、事前打合せ、事前準備、成果物の送付や受け取り、次回に向けた打合せ等、校外の連携機関と交流活動を行う際に、指導者側にかかる授業外の多大な負担についても無視できない。高畠 (2023) でも、「海外とのレター交流は、多大な労力と時間を要し、計画を進めるのは大変な作業であった (p.260)」と記している。

『表1 小学校高学年の外国語科の授業担当者の割合』

	人数 (人)	割合 (%)
学級担任	38,064	47.3
同学年他学級担任 ・他学年学級担任 (授業交換)	8,397	10.4
専科教師 等 (当該小学校所属教師)	20,799	25.8
他小学校所属教師	6,906	8.6
中・高等学校所属教師	1,825	2.3
非常勤講師	4,075	5.1
特別非常勤講師	412	0.5

『令和5年度 英語教育実施状況調査 結果』

文科省 (2024) より一部抜粋

表1を見ると、小学校高学年の外国語科の授業については、半数を超える 57.7%において、学級担任 (同学年他学級担任・他学年学級担任による授業交換を含む) が授業を担当していることが分かる。外国語科の授業のみならず、他教科の授業をも受け持つ学級担任にとって、どんなに手紙の交流活動の教育的効果が大きいと分かっていても、国内外を問わず、校外の連携機関との打合せや準備に、多大な労力と時間を割くことはなかなか難しい。また、手紙の交流活動を行う連携校や授業担当者を見出す人脈を構築することについても、容易でないことは想像に難くない。

以上を踏まえ、手紙の交流活動の教育的効果を最大限に活かしながらも、同じ学校内の学級間で完結し、比較的指導者に負担のかかりにくい活動内容はないかを考えた末に、通常の手紙の交流活動に一定の条件制御を加え考案したのが、Secret Friend である。

## IV 実践研究

### 1 研究の目的と研究課題

本稿では、Secret Friend を、「同学校内の学級間ににおいて、既に互いを十分に知り尽くしている者同士の手紙の交流活動を通して、自らの文通相手が誰であるかを探していく活動」と定義づける。既に、小学校生活を長い間共にしていて、互いを十分に知り尽くしている児童同士での手紙の交流活動に、英語を読んだり書いたりする必然性をもたせることは難しい。そのため、相手が隠された状態で文字を介した交流を行いながら、異学級に在籍する自らの文通相手を明らかにしていくという形で、児童の中にインフォメーションギャップを作り出し、「読みこと・書きこと」を介したやり取りを行う必然性を作り出す。この目的を児童と共にすることで、自らの交流相手を明らかにするために、「相手からのメッセージを捉えたい」や「相手に自分の思いを伝えたい」という内容面への意識が強くなり、言語活動としての機能を有するようになると考える。

以上を踏まえ、Secret Friend という手紙の交流活動が、小学校高学年の児童の発達の段階や学習歴に適した活動なのか、先に引用した (1) ~ (4) の教育的効果に照らし、Secret Friend にはどのような教育的効果や課題点があるのかを探索的に明らかにしていくことを目的として、以下の研究課題を設定する。

研究課題：小学6年生の児童を対象に、一定の条件制御のもと、校内で手紙の交流活動 (Secret Friend) を行う場合、校外の児童との手紙の交流活動と比較し、得られる教育的効果には違いが生まれるのだろうか。

### 2 研究計画

本実践は、令和7年度4月から6月までの3か月間、筆者の勤務校の6年生 (2学級：計45名) を対象に行なったものである。本年度、筆者は6年生の学級担任であり、6年生の2学級の外国語科の授業を担当している。Secret Friend は、外国語科の授業終盤にモジュール活動という位置づけ、4月下旬から5月中旬ま

での期間に、学級間で4往復行った手紙のやり取りを「Secret Friend (お試し編)」、5月下旬から6月中旬までの期間に、学級間で4往復行った手紙のやり取りを「Secret Friend (実践編)」とする（表2）。

《表2 令和7年度 Secret Friend 実施計画》

外国語科の授業内の「Secret Friend」	
4月下旬	○「Secret Friend (お試し編)」 ↓ 全4往復 / 1回15分程度
5月中旬	○活動の足場がけの調整（指導者側）
5月下旬	○「Secret Friend (実践編)」 ↓ 全4往復 / 1回10分程度
6月中旬 意識調査	○意識調査（質問紙調査 & 自由記述）

### 3 研究方法

本実践の研究課題を明らかにすべく、Secret Friendを実施することで、児童の情意面にどのような影響を与えたかを検証していくことが求められる。そのために、2回の手紙の交流活動の実践後の6月下旬に、以下の構成要素からなる意識調査を行った。

(1) 質問紙調査
質問調査紙（5件法）は、Secret Friend が、小学6年生の児童の発達の段階や学習歴に適した活動であるかを明らかにすべく、以下の4項目の質問で構成する。 《活動の難易度を問う質問事項》 「Q1. 手紙を書く活動の困難度についてどのように思うか。」 (難しい / どちらかと言うと難しい / どちらとも言えない / どちらかと言うと難しくない / 難しくない) 「Q2. 手紙を読む活動の困難度についてどのように思うか。」 (難しい / どちらかと言うと難しい / どちらとも言えない / どちらかと言うと難しくない / 難しくない) 《児童の発達の段階と活動の整合を問う質問事項》 「Q3. Secret Friend の活動について、どのように思うか。」 (面白い / どちらかと言うと面白い / どちらとも言えない / どちらかと言うとつまらない / つまらない) 「Q4. Secret Friend の活動を、今後も継続したいと思うか。」 (継続したい / 継続したくない)
(2) 自由記述データをもとにしたテキストマイニング
活動が終了した6月下旬の段階で、児童に Secret Friend を行った上での率直な感想を自由に記述してもらう。本実践では、KH coder Ver.3（樋口, 2014）を活用し、児童による自由記述データをもとに共起ネットワークを作成し、記述データの質的分析を行う。

## V 実践内容

### 1 どのような英語表現を使用するのか

小学6年生児童を対象に、年度当初の4月から行う本実践では、昨年度（5年生）の外国語科の授業の中で、聞いたり話したり、音声で十分に慣れ親しんだ英語表現を手紙の交流活動の中で扱っていく。

《表3 昨年度の授業の中で取り扱った英語表現》

各単元のターゲット・センテンス	
Lesson 1	My name is ( ). How do you spell your name? What ( ) do you like? - I like ( ). What do you want?
Lesson 2	When is your birthday? - My birthday is ( ).
Lesson 3	What do you have? Do you like ( )? - Yes, I do. / No, I don't.
Lesson 4	I can ( ). I can't ( ). Can you ( )? - Yes, I can. / No, I can't.
Lesson 5	Where is ( )? - It's on/in ( ). Turn right / left. Go straight. You can see it on your right / left.
Lesson 6	What would you like? - I'd like ( ). How much is it? - It's ( ) yen.
Lesson 7	This is my town. We have ( ). We can ( ). It's ( ).
Lesson 8	Who is your hero? My hero is ( ). He / She can ( ). He / She is good at ( ).

（引用：『Junior Sunshine 5』 開隆堂出版株式会社）

表3の中でも、Secret Friend の目的である手紙の交流相手を特定するために効果的であると考えられる、下線のある英語表現を児童とともに出し合いながら、活動の中で効果的に使用できる表現を検討する。

- 相手の候補が定まっていない時に効果的なやり取り  
⇒ **What ( ) do you like? - I like ( ).**
- ある程度、候補が定まった時に効果的なやり取り  
⇒ **Can you ( )? - Yes, I can. / No, I can't.**  
⇒ **Do you like ( )? - Yes, I do. / No, I don't.**
- 最終的に、相手を特定する段階で効果的なやり取り  
⇒ **Where is ( )? - It's in ( ).**  
⇒ **When is your birthday? - My birthday is ( ).**

### 2 どのようなやり取りが行われるのか

#### 【4月下旬～5月中旬】「Secret Friend (お試し編)」

児童にとって初めての経験となる Secret Friend (お試し編) では、指導者側から使用する英語表現をある程度限定し、活動の詳細を確認しながら進めていく。

## 【Secret Friend (お試し編)】

**1往復目**  
What ○○ do you like?  
( ○○ に当てはまる  
トピックは、児童が選択 )

**2往復目**  
Can you ○○?  
( ○○ に当てはまる  
内容は、児童が選択 )

**3往復目**  
Where is your house?

**4往復目**  
When is your birthday?

図 1 の構成による手紙の交流活動が、学級間で同時並行に行われる。



《図 1 Group D (両面)》

## 【5月下旬～6月中旬】「Secret Friend (実践編)】

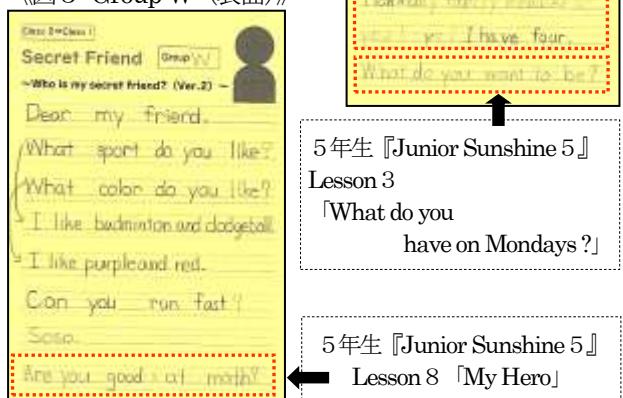
Secret Friend (お試し編) を通して、ある程度活動の全体像を捉えているため、実践編では活動の自由度を上げ、使用する表現を児童に委ねることで、児童が思考をする余白を残していく。以下の 2 点は共通の約束とする。

- 既習の英語表現を使う (読み手への配慮)
- 最初から相手を特定する英語表現は使わない

## 【Secret Friend (実践編)】

4年生『Let's Try! 2』  
Unit 5  
「Do you have a pen?」  
Unit 7  
「What do you want to be?」

《図 3 Group W (表面)》



《図 2 Group L (表面)》

Secret Friend (実践編) の段階でも、お試し編同様の質問事項の並べ方をする児童もいれば、図 2 や図 3 で引用したように、学級全体で検討した表現以外の既習の英語表現を使いながら、手紙を書く児童もいた。

では、児童はこれまで図 1～図 3 で提示した手紙をどのように書いたり、読んだりしているのだろうか。

## 3 どのように英語表現を書いているのか

小学校外国語科の現行の学習指導要領 (文科省, 2018) の「書くこと」の目標では、「イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようとする (p.82)」とある。本実践においても、昨年度までに音声で十分に慣れ親しんだ上で、先に示した、手紙の交流相手を特定するため効果的であると考えられる英語表現の一覧表 (図 4) を、あらかじめ一人一台端末で共有をしておき、児童が自由に参照できるようにした (図 5)。また、交流相手からの質問に答える際には、教科書会社から出されている Word Book を活用し、自らの思いを相手に伝えようとする姿が多く見られた (図 6)。

《図 4 「Secret Friend で使える表現」筆者作成》



《図 5 表現一覧表の参照》

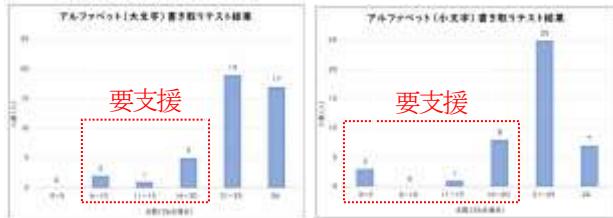
《図 6 Word Book の活用》



また、手紙を書く前提として、アルファベットの大文字・小文字を 4 線上に正確に書くことができるようにしておく必要性について触れる。先に触れた、現行の学習指導要領「書くこと」の目標の最初に「ア 大文字・小文字を活字体で書くことができるようとする (p.81)」とあるように、英単語や英文の大前提として、アルファベットの字形認識が不可欠になってくる。

実際に、本実践を行う直前に行った「アルファベット大文字・小文字書き取りテスト」の結果（図7）からは、大半の児童はアルファベットの大文字・小文字それぞれ26文字をある程度正確に書くことができるようになっていることが分かる。一方、文字の字形認識が不十分な児童に関しては、手紙を書く際にも手厚い支援が必要になってくる。やはり、活動を行う前には児童一人一人の発達の段階や学習歴の正確な把握は必要になってくる。

《図7 アルファベットの書き取りテストの結果》



（令和7年4月中旬実施 対象：6年生2学級44名）

#### 4 どのように英語表現を読んでいるのか

音と文字が十分に一致していない段階では、視覚で捉えた文字を即時的に音声に変換（音韻符号化）することは難しく、その途上で、さらに多くの脳内でのステップ（図8）を必要としている（高橋, 2024）。

《図8 初級学習者が文字を「読む」プロセス》



中でも、文字を読む前提として、音声に十分に慣れ親しんでいる④、さらに文字情報から音声を抽出し、意味内容を捉えるためのきっかけとなる②の段階については、外すことができない。この点について、小学校外国語科の現行の学習指導要領（文科省, 2018）の「読むこと」の目標では、「イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単語句や基本的な表現の意味が分かる（p.78）」と簡潔にまとめられているが、その土台には以下の2点のレディネスが不可欠なのである。

- 「聞くこと・話すこと」が十分に行われ、音声が脳内に溜まっている状況である
- アルファベット「音読み」をある程度正確に認識する力がある

本実践の対象児童は、昨年度の外国語科の授業の中で、十分に英語表現の音声に慣れ親しんでいること、また、1年間を通して、系統的な文字指導を行ってい

ることから、手紙を読む活動を行うまでのレディネスは整っていると判断する。それでも、手紙の中に記された英語表現を読むことができない場合には、ALTや友達に音声化をしてもらい、そこから意味内容を推測するという、図8の脳内のステップをたどるように児童に声がけを行い、足場がけを行った。

《図9 ALTによる音声化》 《図10 友達による音声化》

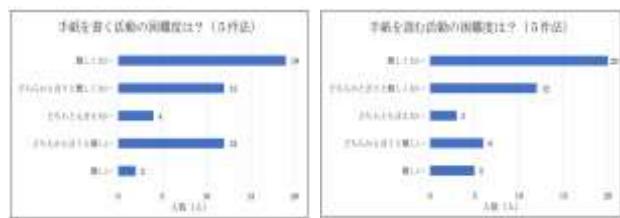


## VI 結果

### 1 質問紙調査より

研究課題に関して議論を行う前に、まずは、Secret Friend の中で行った「書くこと」と「読むこと」の活動が、児童にどの程度の困難さを与えていたのかを質問紙調査の結果から明らかにしていく。

《図11 「書くこと」「読むこと」の困難度》



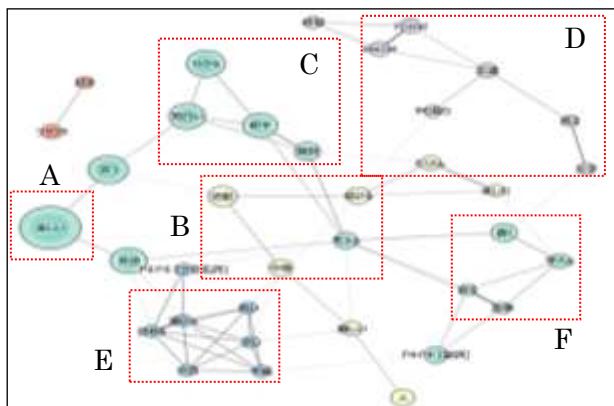
（令和7年6月下旬実施 対象：6年生2学級45名）

本実践において、「書くこと・読むこと」とともに、活動を行う上で十分に足場がけをしたつもりではあったが、やはり困難さを抱えている児童が一定数存在することは見逃せない。先述の通りであるが、児童それぞれのレディネスを十分に把握するとともに、普段からの系統的な指導の重要性を改めて感じる結果となった。

さらに、質問紙調査の中の「Q3. Secret Friendについて、どのように思うか。」という質問に対しては、（面白い：43名（96.6%）/どちらかと言うと面白い：1名（2.2%）/どちらとも言えない：1名（2.2%）/どちらかと言うとつまらない：0名/つまらない：0名）、「Q4. Secret Friendを、今後も継続したいと思うか。」という質問に対しては、（継続したい：43名（96.6%）/継続したくない：2名（4.4%））という結果になった。これらの結果から、Secret Friend という手紙の交流活動が、小学校高学年の児童の認知発達の段階に十分に適した活動であり、Secret Friend を肯定的に捉えていることがうかがえる。

## 2 自由記述データより

《図 12 自由記述データの共起ネットワーク》



(令和7年6月下旬実施 対象：6年生2学級45名)

図12は、Secret Friend 実施後に、児童の書いた自由記述データの共起ネットワークである。この図でまず注目すべきは、左に「楽しい」という語が最も大きく描かれて位置し（A）、中央部に「今後」「活動」「続ける」の結びつきが位置している点である（B）。これらについては、質問紙調査の結果でも明らかになった、Secret Friend の活動内容への児童の肯定的な捉えが、再度、形として現れたと言える。さらに、中央上部には、「質問」「相手」「分かる」「面白い」と線で結ばれており（C）、右上には「Secret Friend」「文字」「見る」「友達」「やり取り」の結びつきが位置する（D）。これらの真意を追求すべく児童の記述データを見ると、単に自分の文通相手が分かるから面白いというだけでなく、「相手の好きなことや嫌いなことが改めて分かつて面白い」や「友達の好きなことや苦手なことが分かつて楽しめた」、「Secret Friend を行い、ペアの友達と仲を深められた気がする」、さらには「Secret Friend をやり、自分の良いところも知れた」という意見も散見された。決して多数意見とは言えないものの、Secret Friend を通して、手紙の内容面に焦点を当てながら自分と異なる背景をもつ友達と心を通わせていたと推察できる。最後に、中央下部、右下にはそれぞれ、「手紙」「会話」「読める」「書ける」「良い」のつながり（E）、「返事」「返る」「考える」「書く」「学べる」のつながりが確認された（F）。ここからは、Secret Friend が「読むこと・書くこと」の力を育むために効果的に作用することを、児童自身も実感していることが伺える。それが、学習意欲にもつながり、通常の授業内容とも相乗効果を生み出すことは想像に難くない。

本稿では、オーセンティックな手紙の交流活動による教育的効果に「（1）オーセンティックな学びの機会」「（2）異文化理解や他者理解の意識の涵養」「（3）動機づけや学習意欲の強化」「（4）「読み・書き」の能力

の向上」の4点を据えているが、果たして Secret Friend はどの程度これらを満たしているのか。

Secret Friend がそもそもオーセンティックな学びではないものの、質問紙調査や自由記述のテキストマイニングの結果からは、「（3）動機づけや学習意欲の強化」や「（4）「読み・書き」能力の向上」には十分に貢献する活動であると言える。一方、「（2）異文化理解や他者理解の意識の涵養」については、国内外を問わず、校外の人の手紙の交流活動と比較すると、Secret Friend を通した相手意識や他者理解といった面における効果の薄さは否めない。しかし、児童の記述データからも分かるように、全く得られないわけではないので、その点については Secret Friend の活動内容に修正を加えていくことで、十分に改善できるものであると考える。

## VII 成果と課題

本実践の成果は、現状、課題の多い「読むこと・書くこと」における言語活動という切り口から、同じ学校内の学級間で完結し、指導者に負担のかかりにくい活動という条件のもとで、比較的誰もがアクセスしやすいSecret Friend を生み出し、その教育的効果と課題点を明らかにできた点である。しかしながら、全国津々浦々の児童に効果の高い教育を提供することが、我々の責務である。その点において、本実践の有する教育的意義は非常に大きい。一方で、本稿で明らかになったSecret Friend の課題点については、今後、さらなる改良を重ねることで、児童が最大限の教育的効果を享受することができる、少しでもオーセンティックな学びに近づけていく所存である。

### 【引用・参考文献】

- Gorshkov.V.・Lange.E.(2017). Motivating English Learning through International Friendship Letter Exchanges 開智国際大学  
紀要 第16号 67-85  
伊藤由紀子.(2015).「英文手紙交換がもたらす中学生の異文化理解と英語学習に対する意識の向上」第27回英検研究助成 実践部門  
岩下温美.(2020).「相手意識を育み「書くこと」の技能を伸ばす小学校外国語の指導 - 小中連携での単元開発を通して -」上越教育大学教員養成・研修高度化センター教育実践研究 30 151-156  
開隆堂出版株式会社(2024).『Junior Sunshine 5』  
高橋博将.(2024).『初級学習者に求められる読む力』につながる系統的な指導に関する研究 令和6年度埼玉県連合教育研究会論文  
高畠伸子.(2023).「日米の中学生間の母国語と目標言語による手紙交換 - 言語意識をスパイラル・ラーニングと経験学習から育む -」  
中島裕美・奥平明香・黒木愛.(2025).『伝えたい!』思いを大切に育む 小学校外国語の言語活動 フラット・スタンレー - ご当地交流プロジェクトを通して - 言語教育エキスポ 2025 発表資料  
樋口耕一.(2014).『社会調査のための計量テキスト分析』ナカニシヤ出版  
文部科学省.(2017a).『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』  
文部科学省.(2017b).『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』  
文部科学省.(2017).『中学校学習指導要領解説 外国語編』  
文部科学省.(2023).『令和5年度 英語教育実施状況調査 結果』